
クリスマスはしょっぱい

大林秋斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマスはしおっぱい

【Zコード】

Z7910Z

【作者名】

大林秋斗

【あらすじ】

クリスマスはしおっぱい思い出が先にくる。
父とのクリスマスの思い出。サイトからの転載です。

クリスマスはショッピングで思い出が先にくる。

サンタがおとうちゃんいうの知ったん、早かったんよ。

幼稚園年長組の時、クマが主人公のアニメがあった。
うちはそのぬいぐるみが欲しかった。

だから、その年のサンタさんからのプレゼントはクマのぬいぐるみ
を願った。

でも、うちが欲しかったアニメキャラのクマやなくて、偽物が枕元
に置いてあった。

鼻の位置が目と同じ高さについてて顔つぶれて見えてかわいくない。
「これ違う」って文句言つてたら、

おとうちゃんは、「サンタさん間違えたんか？ でもこれもかわ
いやう？」って言つた。

うちはそれに返事せんかった。

小学校2年の時、妹が生まれた。

赤ちゃんとて小さくて柔らかくてかわいい。

うちも夢中になつた。

学校帰つてきたら、ベビーべッド行つて妹の顔見る。
たいてい眠つてたけど、たまに起きてる時もあって、うの田をじ
つと見返してた。

その後から、サンタさんのプレゼント、「何かの物」から「お菓子入りの靴」に変わった。

家族が増えた分、サンタさんのお財布も経費削減なんやな。

それからサンタさんのプレゼント忘れ事件が起につた。

うちが小6、妹4才の時や。

「すまんな、売れきれてて、こつもの用意できてないんや」

そんなことをおとうちゃん、

夜10時すぎの寝入りっぱな起こされても困る。

分かってても、クリスマスの朝に、枕元にプレゼントないのは寂しかつた。

けれど26日朝にお菓子の靴が置いてあつた。

ふーん、どつかに残つてたんやな。

そう思いながら、妹とお菓子をひとつひとつめくつ食べたん覚えてる。

おとうちゃんサンタからプレゼントなくなつたの高校卒業の年やつた。

もう、「お菓子の靴うれしい」と思つ年なんかひとつあるまい。中学生の時にやめてくれても良かつたんよ。

でも妹がいたから続いていた。

妹の方もわたしと同じように高校卒業までやるところ。

変なところに真面目なんやから。

「いみんな、もうないからな」つて、妹のいない所ですまなさつこ頭下げた。

「ええで、全然気にしてないじ」つて苦笑いしながら眞つたつけなうぢ。

それから大学に行き彼氏できた。

初めて家に連れてきたのは2人目の彼氏。

おとうちゃんも彼氏も会ったときは緊張してたな。
なんか2人とも緊張しすぎて普段あまり聞かない丁寧語で話してた。
それうちも移つてしまつて同じようにおとうちゃんや彼氏相手に「
です」「ます」って話してもうた。

体に力はいってたみたい。

その彼氏と2人でクリスマスを過ごした。

それから以後、クリスマスの日は家とは違う所で過ごすのが決まり
となつた。

彼氏と一緒に5度目のクリスマス、鮮明に覚えてる。

会社勤めして1人暮らし始めた彼氏のマンションのリビングで、
2人きりの手作りのディナーしている時だつた。

うちのバッグから携帯の音が鳴つた。

こんな時に誰やねん、と思いつつ手に取ると、おかあちゃんからや
つた。

「もう、いったい何?」つてうちが不機嫌になつてしまつても仕方な
いやうう?

そうしたらおかあちゃん、切羽詰まつた声で「病院来て」言つんや。

うちは急いだ。

彼氏が車乗せてくれて一緒に病院まで行つた。

信号を待つ時間も気がせつてどうしようもなかつた。

病院に着くと、腕に点滴の管を繋いだおとうちゃんがベッドに座つ
てた。

「おお、来てくれたんか」とにっこり笑う。

なんや緊急入院、手術せなあかんはずの人やのに、全然元気やん。

拍子抜けしたわたしにおとうちゃんは言ひ

「すまんな、癌言つても初期やし。でも家族呼べと医者がうるさいてな」

がははとまた笑った。

うちらもつらられて笑つたけど、病室出でから、おとうちゃん抜きの面談室で聞いた医者の話は深刻だつた。

余命8か月。

癌が大腸から肝臓、肺に飛んでいて、癌は切除不能。手術はストーマー（人工肛門）つけるだけのもの。

おとうちゃん、笑つてたやん。

どこが病氣やの？ つて見た目だけでは分からぬのに……。
うちらは笑顔作れる自信なかつた。

けれど妹が泣き出してしまつたので、おかあちゃんと一緒に宥めた。初期やと信じてるおとうちゃんに疑われてしまつ。

病室戻つておとうちゃんと軽口言つてから、家に帰ることにした。彼氏もわたしとす「予定にしてたからとわたしの家に泊まる」とになつた。

重苦しい空氣の中、布団に横たわつたまま寝つけないでいると、彼氏はぎゅっと抱きしめてくれていた。

1週間後、おとうちゃんは手術した。

術後は順調、8か月と言われた余命だつたけど、1年半、生きてくられた。

その間にうちらは彼氏と結婚した。

式はしなかつた。

グアムに行つて写真撮つてきただけ。

「今の子の結婚て愛想ないなあ」

おとうちゃん呆れ顔で言つてたけど、しようないやん。

結婚した時、まだおとうちゃん体動けてた時やから式場借りてもありやつたかもやけど、お金なかつたし借金したくなかったし。

結婚して初めてのクリスマスは実家ですごした。

久々ちやうの？ 家族勢揃いしたん。

もう、この時にはおとうちゃん、だいぶ弱つてた。

立つたり歩いたり、日常生活はなんとかいける、けど、休めがいる。ふらつくのだそうだ。

そういうえば実家でクリスマスツリー飾つたの初めて見たんちやうやろか。

クリスマスは「お菓子の靴」とケーキ食べるだけのイメージやつたけど、結婚式せんかつたわたしへのプレゼントやとか。

でも、このおつきなツリー新居に持つて帰つても置き場所困るやんか、おとうちゃん。

クリスマスツリーの前で記念写真携帯でばしばし撮つた。

その画像見返すと、おとうちゃん、ずいぶん痩せたなつて思った。

おとうちゃんは、忘れんばで嘘つや。

妹が高校卒業するまでサンタ続ける囁つてたんやつかつたの？

おとうちゃん、ツリー見える？

今年もまた出したんやで、このおつきこツリー。

むつ、まじで迷惑、なんでも小さこのせんかったの?
リビングの場所取つてゐる分かるやうに?
子供は喜んでゐるやうだね。

妹も高校卒業して彼氏おるみたい。

考えたらサンタなんて不要やん、年的には十分。
約束守れなくても安心したかな、おとうちやんな。

おとうちやと、二人田がお腹の中おるんやで。
うちの2代田サンタさんにも、「お菓子の靴」のフレゼント継いで
もらつてゐる。

いつもこも経費削減考えて、最初から「お菓子の靴」なんやけどね。
はは、クリスマスはやっぱりしちゃうばーわ。

なにやかんや聞こなが、おとひやサンタと回じてついてるも
ん。

いつかの「ひみつ」に、今度は四分の子供から文句言われやつた。
ねといひやせさせ、あいつねるもんや思つてた。

あつがといひやせよかつたな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7910z/>

クリスマスはしょっぱい

2011年12月25日14時52分発行